

さいかい



—さいかいりよく—



さ

里山に咲く
笑顔!



い

しいね!
自然の豊かさ
人の温かさ



か

元気あふれて
夢いっぱい!

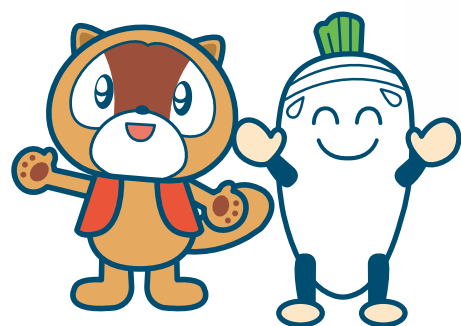


い

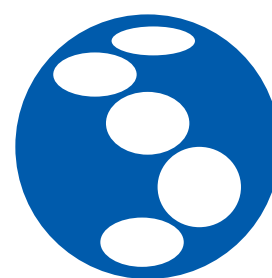
いつまでも
まっすぐ
のびのびと!

力

カブよく
元気に!



活躍のまち さいかい



市章

西海市のイニシャル「S」をモチーフにデザイン化し、「人と自然が元気な力強い産業と交流のまち」をイメージし、未来に向かって発展する市を親しみやすくシンボライズしました。5つの円は合併した「5町」を意味しています。

2017年 西海市市勢要覧 Saikai City Outline

発行：長崎県西海市
発行日：平成29年6月
編集：西海市役所
製作・印刷：(株)昭和堂



西海市のシンボル

市の花 City Flower
「かのごゆり」

市内一円に自生する希少な花で、生薬は百合(ゆきね花)と呼ばれ、滋養強壮などの薬効もあり、本市が総合的に掲げる「健康の里さかい」のイメージに相応しい花です。

市の木 City Tree
「やまもも」

内海地区、外海地区を問わず、西海市全域に自生しており、更にうっそうと繁る姿は、西海市の今後の繁栄を願うイメージにも繋がる花を咲かせます。

市の花木 City Flowering Tree
「はまぼう」

海岸沿いや河口付近の干潟の陸側や湿地帯に生育しており、人里近くでもその美しい鳴き声を楽しむことができ、万葉集にも唄われるなど、歴史・文化的な資源を活かしたまちづくりを進める西海市に相応しい趣を有する鳥です。

市の鳥 City Bird
「うぐいす」

海沿いや河口付近の干潟の陸側や湿地帯に生育しており、人里近くでもその美しい鳴き声を楽しむことができ、万葉集にも唄われるなど、歴史・文化的な資源を活かしたまちづくりを進める西海市に相応しい趣を有する鳥です。

市の魚 City Fish
「あらかぶ」

独特の風体を有し、地域の方言としての「あらかぶ」といふ言葉の響きも珍しく、食しても大変美味しい魚です。



沿革

永禄5年（1562年）、日本最初のキリシタン大名である大村純忠（1533年～1587年）が横瀬浦（西海町）にポルトガルとの貿易港を開港したことから、本市は南蛮貿易やキリスト教とゆかりの深い歴史を持っています。また、江戸時代には大村藩に属しており、大村藩の捕鯨基地としても栄えました。

その後は、炭鉱全盛時代と石炭から石油へのエネルギー革命による炭鉱閉山の歴史を持ち、各所に当時を偲はせる炭鉱遺跡が残っています。

町村制が施行された明治22年4月時点では、13村で構成されていましたが、その後の合併、編入、町名変更を経て昭和44年1月に西彼町、西海町、大島町、崎戸町、大瀬戸町の5町構成となり、平成17年4月1日に5町が対等合併し西海市となりました。

History

In 1562, a trade seaport was opened in Yokose-ura (Saikai-cho) by Japan's first Christian daimyo, Sumitada Omura (1533-1587). Due to this historical background, Saikai has longstanding historical ties with trade with Europeans, and with Christianity. In the Edo Period, Saikai became part of the Omura domain and thrived as a whaling port.

Later, the city experienced a period of prosperity from coal mining and the subsequent closing of the mines with transition from coal to petroleum as the principal source of energy. Historical monuments from the coal mining age can be found in various parts of the city.

In April 1889 when incorporation into towns and villages took place, the area consisted of 13 villages, which were later merged, reorganized and renamed. In January 1969, it became consisted of the towns of Seih, Saikai, Oshima, Sakito and Oseto. On April 1, 2005, the 5 towns were equally merged to form Saikai City.

西海市市勢要覧 Saikai City Outline

さいかい力

目次 CONTENTS

「さいかい力」でまちづくり

まちづくりの基本構想	02
◎自然・食・歴史のまちづくり	
自然・歴史のさいかい力	04
食・産業のさいかい力	06
◎安全のまちづくり	
安全・安心のさいかい力	08
◎健康・子育てのまちづくり	
健康のさいかい力	10
子育てのさいかい力	12
◎企業誘致の実現	
企業誘致のさいかい力	14
西海市合併	
これまでの歩み	16
—これまで—そしてこれから—	
西海市イメージソング SAIKAI	18
西海市歌・音頭	19
西海“彩”時記	20
西海市内の主な文化財	22
“さいかい力”マップ	26
市長メッセージ	28



位置・地勢

本市は西彼杵半島の北部にあり、県内の2大都市である長崎市と佐世保市の中間に位置しています。また、東岸は大村湾に、西岸は外海の五島灘、角力灘に面しており、前ノ島、竹島、江島、平島、松島といった架橋で結ばれていない5つの有人島を有しています。

総面積は241.95km²(平成21年4月1日現在)で長崎県全体(4,104.90km²)の5.9%を占めています。民有地の地目別面積の割合を見ると、山林が45.7%で最も多く、以下、田畑36.1%、原野9.5%、宅地5.0%、その他(池沼含む)3.7%の順となっています。

本地域は、リアス式海岸などの複雑な地形を持った海岸線や、点在する大小さまざまな島、丘陵起伏が続く地形といった美しく優れた自然景観を有しており、西海国立公園、大村湾県立公園、西彼杵半島県立公園の3つの自然公園に指定されています。



Geographical location and features

The city is located in the northern part of Nishisonogi Peninsula, roughly midway between the two large cities in the Prefecture, Nagasaki and Sasebo. Also, the city faces Omura Bay to its east and Goto-nada Sea and Sumo-nada Sea to the west, as well as five inhabited islands of Maenoshima, Takeshima, Enoshima, Hirashima and Matsushima that are linked with bridges.

The total land area is 241.95 km² (as of April 1, 2009), which accounts for 5.9% of the total for Nagasaki Prefecture (4,104.90 km²). In the breakdown of the types of land in private ownership, the largest majority of 45.7% consists of forest mountains. This is followed by farmlands (36.1%), grassy fields (9.5%), residential land (5.0%) and others, including wetlands (3.7%).

The area boasts scenic beauty created by ria-type geological formation that creates a complex coastline, islands of various sizes studded across the sea and hilly terrain. Because of the beauty, it has three nature parks, namely, Saikai National Park, Omura Bay Prefectural Park and Nishisonogi Peninsula Prefectural Park.



将来像

人口減少、少子高齢化や経済の衰退など、日本中の自治体を取り巻く課題が以前にも増して多様化し累積しています。

このような状況の中、西海市が将来にわたって持続的に発展していくために市民、市内産業、地域が誇りを持ち活躍することによって様々な課題を解決し、移住、定住、起業、就職、進学、観光などあらゆる場面で「選ばれる」地域となるよう、本市の目指すべき将来像を「活躍のまち さいかい」とします。

第1次総合計画策定から10年間で、「つながる ひろがる 未来へ つづく 健康の里さいかい」を将来像として、「人と自然が元氣な力強い産業と交流のまち」の実現へ向けて推進してまいりました。今後は、その方向性を踏襲しつつ、西海市一丸となって、「西海市人口ビジョン」で掲げる平成72年（2060年）の人口30,000人達成を目指します。

まちづくりの基本目標・基本姿勢

★基本目標

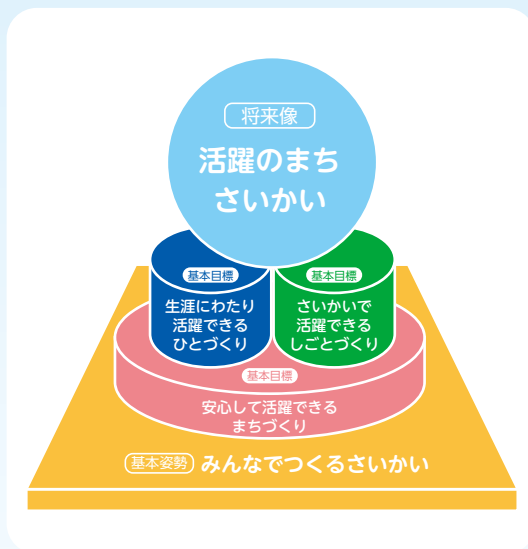
★基本姿勢

生涯にわたり
活躍できる
ひとづくり

さいかいで
活躍できる
しごとづくり

安心して
活躍できる
まちづくり

みんなで
つくる
さいかい



「活躍のまち さいかい」を実現するため、西海市で「生涯にわたり活躍できるひとづくり」、市民一人ひとりが様々な分野で活躍できる「さいかいで活躍できるしごとづくり」、また、人や産業が安定して活躍・発展するために必要な場所として、「安心して活躍できるまちづくり」を基本目標とし、それらが密接な関わりと相乗効果を生み出す土台として、市民、市内産業、地域および他の自治体との相互連携をはかりつつ、効率的かつ市民に身近な行政運営に努める「みんなで作るさいかい」をまちづくりの基本姿勢とします。

～みんな目指す人口30,000人～
活躍のまち さいかい

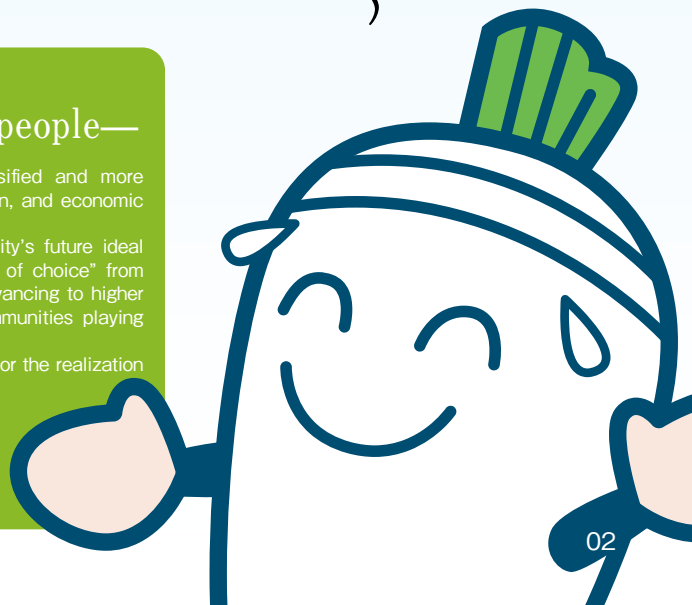
Saikai: a City of Playing Active Roles —United effort to reach a population of 30,000 people—

The problems facing local governments throughout Japan have become more diversified and more accumulated than ever, such as depopulation, the decreasing birthrate and aging population, and economic decline.

Considering this situation, for our city's sustainable development, we have decided our city's future ideal image to be "Saikai—a City of Playing Active Roles," so that we will become the "area of choice" from various aspects, such as migration, settlement, starting a business, finding employment, advancing to higher education, and sightseeing, by solving problems through our citizens, industries, and communities playing active roles with pride.

During the 10 years since the formulation of the First Comprehensive Plan, we have strived for the realization of a "city of powerful industries and interactions with healthy people and nature," setting "Saikai: a City of Healthy People—Expanding bonds of people create our future" as our city's future image.

From now on, following that direction, Saikai City will aim to reach a population of 30,000 by 2060, which is set forth in the "Population Vision of Saikai City," through its united efforts.



1. まちづくりの基本目標①

生涯にわたり活躍できる ひとづくり

★家庭、地域住民、市内産業、教育機関及び行政が連携し、子育て環境と教育環境を地域全体で支え、子育て世代の希望を叶えることにより、西海市の将来を担う子どもたちが明るく伸び伸びと健全に育ち、更にその子どもたちが「将来は西海市で子どもを育てたい。」と思える地域になることを目指します。

★市民一人ひとりが健康づくりに高い意識を持ち、生涯現役で活躍できるよう健康寿命を延ばすとともに、だれもが互いにその人らしさを認めあひながら活躍できる地域になることを目指します。

★歴史、伝統、文化、自然、地元産業及び市民の温かい人柄など本市ならではの地域資源を活かした体験学習、食育及び郷土教育等を推進し、子どもたちの知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むとともに、国内外における姉妹都市交流などの充実を図り、広い視野と見識を持った世界を舞台に活躍できる資質を向上させ、本市の地域や産業など様々な分野を担う人材を育成します。

★生涯学習環境を充実することにより郷土を担う人材を育成するとともに、ライフステージに応じたスポーツ環境を整備することにより、市民の健康維持・増進及びスポーツ競技の場で活躍できる人材を育成します。

2. まちづくりの基本目標②

やいかに活躍できる コミュニティづくり

★ブランド化、高付加価値化、異業種との連携及び「コミュニティビジネス」形成などの手法を活用し、高い収益性と安定性を備えた第1次、第2次及び第3次産業を創造・育成するとともに、これら地元産業の情報を魅力的に発信し、さらなる販路拡大や新規就業者獲得などの好循環を生み出すことを目指します。

★市内各地に存在する景観・歴史・自然環境及び地元産業など豊かな観光資源を面的・有機的に融合し、「観る」「学ぶ」「遊ぶ」「体感する」といったあらゆる世代に楽しめる観光商品として磨き上げ、いつでも、誰にでも、何度でも楽しみを提供できる観光地となるとともに、観光地を担う「コミュニティビジネス」等によって雇用を拡大することを目指します。

★地元産業における技術力の融合や女性の活躍による起業・新産業創出を促すとともに、市外企業の誘致や新規事業展開を呼び込むことにより、直接雇用だけでなく、関連産業の発展による多様な雇用機会の創造を目指します。

★市内における勤労者福祉を総合的に向上させ、すべての労働者にとって働きやすい労働環境の実現を目指します。

※「コミュニティビジネス」

地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする事業のこと。

3. まちづくりの基本目標③

安心して活躍できる まちづくり

★地域の繋がりと災害に強い基盤整備により防犯・防災体制を確立させ、市民が安全安心で快適に暮らせる環境づくりを目指します。

★充実した社会保障制度の運営により健やかで安定した生活の基盤づくりを推進し、各種保険制度における財政健全化に努めることで市民の負担を軽減させ、医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の体制を整えることで高齢者の不安を解消し、住みなれた地域において快適に生活できるよう、豊かな共生社会を目指します。

★住宅地や生活道路などの整備、地域公共交通の充実を図ることにより良質な住環境を整え、生活格差のないまちづくりを目指します。

★地元の資源を有効に活用し、自然環境の保全と産業振興とを両立させた、市民が愛着と誇りをもてるまちづくりを目指します。

4. まちづくりに対する基本姿勢④

みんなであつくるやいかに

★行政と民間、他の自治体との垣根を越え、広域的な連携を図り、市民の自主的・主体的で、収入、学歴、身体的、年齢、男女の差による隔たりがなく、だれもが参画・活躍できるまちづくりを目指します。

★定住促進、人口流出抑制を図り、子育て世代や若い世代が住みやすいまちを目指します。

★透明性が高く市民に身近な行政運営に努めるとともに、限られた行政資源を効果的・効率的に運用することにより、市民のニーズに応えるまちづくりを目指します。

★本市の魅力を行政と市民が協力しながら市内外に戦略的・継続的に発信することで、市民の郷土愛を育むとともに、市外居住者の本市に対する関心と憧れを醸成し、「選ばれる」地域となることを目指します。



しりくさり
尻久砂里海浜公園

美しさのあまり、お尻が腐るくらいいつまでも眺めて
いたいということから名付けられました。



西海市は周りを五島灘や大村湾に囲まれ、自然体験プログラムが豊富にあり、春休みや夏休みはアウトドアレジャーを楽しむ人たちが多く訪れます。

ダム湖の「伊佐ノ浦公園」、うず潮名物の「西海橋公園」、大村湾と隣接した「四本堂公園」などがあります。また、夏はエメラルドグリーンの遠浅の砂浜が広がる「尻久砂里海浜公園」や「柳の浜海水浴場」「崎戸海浜公園」が人気です。

また、長崎県が中心となって進めている長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録の動きもあり、あらためて南蛮船来航の地・横瀬浦や、ジュリアン出生の地・中浦地区などにも注目が集まっています。



美しい
湖畔が広がる
ダム湖。

伊佐ノ浦公園

コテージやバンガローもある県内有数のアウトドアスポット。



中浦ジュリアン記念公園

ジュリアンの出生の地・中浦に整備された公園。
資料展示室には色彩壁画でジュリアンの生涯が描かれている。



自然・歴史

山と海が隣り合わせという自然環境の良さから
アウトドアレジャーのまちとしても人気が高く、
さらに南蛮文化伝来の地として歴史にも登場。

自然が創りだした鍾乳洞 南蛮文化・キリスト教伝来の地

七釜鍾乳洞

国指定天然記念物の鍾乳洞。約3000万年前という新しい地層の石灰質砂岩に発達したもの。日本では希少価値が高く、洞穴は平均気温15℃前後を保ち、自然が作りだすアドベンチャーな雰囲気味わえます。

Nature and history

Limestone cavern created by nature

Namban culture in the town where Christianity was first introduced to Japan

Being close to both the mountains and the sea, Saikai City is a favorite destination for outdoor leisure tourists. Saikai is also well-known as a historical town where Namban Culture was first introduced to Japan.

歴史に「もしも」が あれば、ここが長崎…。

さるくガイドによるガイドが
歴史のロマンを感じさせてくれます

その昔、捕鯨で栄えていた長崎県西彼杵半島。半島の北端にある西海市横瀬浦は、かつて平戸を追われたポルトガル人の貿易船のために開かれた港でした。しかしこの港は、焼き討ちによって2年足らずでその歴史を終え、それが1571年の長崎開港へとつながります。今でも、往時をしのばせる天主堂跡、大村館跡、南蛮船来航の記念碑などの史跡が点在しています。



南蛮船来航の碑



横瀬港



四本堂公園

海・山の自然を利用した海浜運動公園。石積みの展望台からは大村湾を一望できるほか、オートキャンプ場も完備しています。



崎戸歴史民俗資料館



音浴博物館

さらに、社会のデジタル化が進むなか、アナログレコードを聴きながら、時を忘れ、音楽を心とからだ全体で感じるこのことのできる施設「音浴博物館」には、全国各地からファンが集まり、年々来場者が増え続けています。西彼杵半島の静かな森の奥深くに位置し、約16万枚のレコードや、100年以上前の手回しの蓄音機など、音にまつわる膨大な収蔵品は懐かしさと共に、当時の記憶を呼び戻させてくれます。レコードと旧式のスピーカーから流れる味わい深いアナログの音楽を聴いて、思わず涙する人も多く、忙しく毎日を送る人たちの癒しのスポットとしても注目されています。

館長代行の高島正和さんは「めまぐるしく変化する社会のなか、この施設は時間がゆっくり流れる感覚になれる場所です。昭和を知る世代には懐かしく、若い人たちには新鮮に映るのかもしれないね。」と話す。

あの頃がよみがえる 懐かしの音楽を大音量でぜひ



山海の恵みが満載！



Food and industries

The city blessed with delicious foods from both the land and the sea!

We are promoting "Saikai Brand" foods all over Japan!

Blessed with fertile farmland and rich fishing grounds, Saikai produces a wide range of agricultural and fishery products. Our delicious local cuisine and "Saikai Brand" agricultural and fishery products have been highly acclaimed all over the country.

五島灘、大村湾と海に囲まれ、多く栽培され、収穫期には贈答用としても全国発送されています。

また、農産物では、特産品でもある「ゆで干し大根」を筆頭に、ばれいしやアスパラガス、ブロッコリーは長崎県内有数の産地として、九州や関西地方を中心に出荷しています。

さらに西海市は柑橘の里としても知られ、早生を中心とした温州ミカンや中晩柑など種類も

サキ、イセエビ、クエブリ、カサゴ、アワビ、ウニなど1年を通してさまざまな魚種が水揚げされます。中でも近年、ブランド化を進めているのが「シマアジ」。天然トラフグに混じって漁獲され、味はトラフグに引けをとらないと評判の逸品。西海市の新ブランドとして注目されています。

また、各地域のグループや女性部が作る加工品なども、地元産の素材を活かした商品が多く、サツマイモを原料にした焼酎をはじめ、手作り味噌、ミネラル豊富な海水から作る塩などもあります。



食・産業

土壌と漁場に恵まれた西海市の山海の幸郷土料理から西海ブランドまで逸品揃い全国各地で評価の高い「メイドイン西海」



西海ブランドを全国へ発信!



ゆで干し大根

断崖絶壁の干場で寒風にさらす西海市の特産品



マダコの水揚量は
長崎県内有数!



えべす蛸

大瀬戸町漁協で加工したボイルタコです。



ばれいしょ

赤土で育ったものは市場で人気



みかん

種類豊富な柑橘類は西海名産



西海ポーク

養豚生産額は県内一位



イチゴ

イチゴ狩りなど生産量も豊富



イセエビ

9月には「伊勢海老祭り」も開催



焼酎

地元素材を使った大島酒造の焼酎



カサゴ

近海で穫れ、刺身やみそ汁が人気



アスパラガス

太く柔らかい食感の西海アスパラ



シマフグ

トラフグに劣らぬ味わいながらリーズナブル

西海市の
新しい特産品
として注目!



酢

昔ながらの製法で手作りする酢



手作り味噌

各地区の婦人部が手作りする味噌



塩

西海市沖の海水から作られる塩



江島しょう油

離島・江島で手作りする幻の醤油



消防団の出初式の行進(写真右)と操法大会の様子
訓練の成果を発表する消防ポンプ操法大会の様子

さらに、万一の時に住民避難を援助する「自主防災組織」の取り組みが地域に広がっています。2013年に組織を結成した川内公民館地域では、

西海市の各地域では「自分たちが住むまち自分たちの手で守る」という高い意識もあって「消防団」活動も盛んに行われています。新春の出初式をはじめ、毎月2回の機械器具点検、防火防災の啓発活動、防火予防の夜間警戒パトロールなど、住民たち自らが積極的にさまざまな活動に取り組んでいます。

また、青色パトロール巡回活動では、市内7地域で17車両が日々巡回パトロールを行い、犯罪が起らないまちづくりに貢献しています。「犯罪なく3ば運動」推進モデル地区なども推進し、近年社会問題化している振り込め詐欺を事前に防ぐための活動も行っています。

西海市では「西海市安全・安心まちづくり推進条例」を策定し、市民自らが安全安心なまちづくりに取り組んでいます。もともと地域のつながりが強い土地柄で、現在もさまざまな見守り活動や防犯活動に取り組んでいます。小学生や中学生の通学路の安全を見守る「通学路見守り隊」などは校区内の住民たちが通学児童生徒を見守っています。



子どもや高齢者を地域で見守る 昔から伝わる助け合いの心は西海市の宝

次世代につなげる 安全・安心の 西海市の取り組み





消費生活犯罪防止啓発運動

振り込め詐欺などに注意するよう呼びかけるパレード



民間交番、西海安全パトロール隊本部 開所式



通学路見守り隊

通学時の小中学生を見守っています

定期的に会合を開き、緊急時の対応や運営の方法、住民への広報活動を行っています。

市内各地で活動する防犯・防災・防火団体は、行政との連携はもちろん、警察や駐在所などとも連絡を密にし、情報を共有して緊急時の体制づくりを整えています。特殊詐欺など犯罪も多様化し、対応の難しさの問題になっていますが、地域一体となった取り組みで未然に防ぐ、それが西海市です。

青色パトロール運動

登録した車両に青色灯をつけて地域を巡回します。



Safety and Security

Saikai City's commitment to building a safe and secure city for future generations

It has been our tradition to keep an eye on children and elderly people in the neighborhood. We are proud that people with this spirit of mutual aid are the greatest asset of our city.

家族の絆で特殊詐欺を撲滅！ 県内総ぐるみの「犯罪なく3ば運動」

平成27年度までに全国一犯罪率の低い安全・安心な長崎県を目指し、社会全体の防犯意識向上のために始められた県民総ぐるみの防犯運動。

1. カギかけんば運動=乗り物や住宅などに必ず鍵をかけるなどを意識することで防犯意識を高める目的。
2. ひと声かけんば運動=子どもへの挨拶、高齢者への声かけをすることで地域における絆を深め、規範意識の向上を目的。
3. 見守りせんば運動=犯罪が起きにくい地域づくりを目指し、警察、自治体、防犯協議会、ボランティアが連携して防犯パトロールや子どもの見守り活動を推進して犯罪が起きにくい地域をつくる目的。



健康でいきがいのある街づくり

元気を発信する西海市



健康

元気づくりを後押しする自然公園が充実している西海市。ありのままの姿を活かした自然公園をはじめ、幅広い世代が参加できるイベントなどで健康づくりをサポートしています。

近年、市民の健康への意識の高まりから、西海市でもロードレースやウォーキングイベントを通して、生涯スポーツや健康づくりのお手伝いをしています。

若年層のスポーツへのサポートだけでなく、まち歩きや歴史散歩、自然散策など、年齢に関係なくどなたでも楽しめる四季のイベントやスポーツをさまざまな媒体を通して紹介しています。

もともと西海市にはウォーキングを気軽に楽しめる散策スポットが多く、自然の中を歩くトレッキングなどは盛んに行われています。なかでも代表的なイベントが「さいかいシティウォーク」。2015年には10回目を迎え、毎年幅広い年齢層の方が西海市を訪れ、西海市の魅力を体感しています。毎年コースが変わることからリピーターも多く、近年の健康づくりの高まりもあつて参加者も年々増えています。



グラウンドゴルフ

場所を選ばず気軽にできるグラウンドゴルフは各地で盛んに行われているシニアスポーツ



七釜ロードレース大会

小学生から大人まで毎年たくさんの市民が参加して行われる。



伊佐ノ浦公園

宿泊や自然体験交流施設だけでなく、サイクリングコースやオートキャンプ場も備えた充実の自然公園



大島パークゴルフ

Health

Building a city where people can live healthily and happily:
Saikai City, the city making people happy

Saikai City boasts nature parks that help people to lead healthy lifestyles. The natural landscape is preserved in these nature parks. The city supports its residents enhancing their fitness by holding various fitness events in the parks in which people from a wide range of generations can join.



市民みんなで取り組む

「第二次健康さいかい21」

西海市では平成25年度から34年度までの「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動」に基づき平成25年3月に第二次健康さいかい21を策定しました。キーワードは5つ。

①健康寿命の延伸と地域格差の縮小

②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

④健康を支え、守るための社会環境の整備

⑤栄養・食生活、身体活動・運動、飲酒、喫煙、休養及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

また、七釜鍾乳洞一帯で開催される「七釜ロードレース大会」は、本格的なランナーも大勢参加するビッグイベントです。小中高、一般男女にコースを分け、冬の西海市を駆け抜けます。

ほかに、「伊佐ノ浦公園」では、吊り橋や山道の散策ウォークはもちろん、湖畔を眺めながら安全に楽しめるサイクリングコースも完備。レンタルサイクルもあり、週末などは家族連れで楽しむ姿も見られます。

大正から昭和初期にかけて炭鉱で栄えた松島の桜並木は、約200本のソメイヨシノが桜のトンネルを作ります。島内には松島炭鉱の名残も多く、当時に思いをはせながらの歴史散策も楽しめます。

子どもからシニアまで、さまざまな世代が健康づくりを楽しみながら過ごせるまち、それが西海市です。



西海橋公園

西海橋の両側に整備された桜の名所。うず潮を一望しながらのウォーキングスポットとしても最適



さきと33°元気ランド

炭坑跡地を利用した芝生公園。おもしろ自転車などもあり、広大な敷地でのびのびと楽しめます

松島の桜坂

毎年桜の季節には多くの人が散策に訪れます



Child-raising

Many newly-married couples choose Saikai City as the place for their new lives. The city is actively supporting mothers and fathers who are raising their children in their new hometown. We encourage parents to meet other parents and deepen their friendship.

子ども、家族、仕事…

子育て ママトク



支援センターのおかげで
おでかけが楽しみに!!

結婚を機に西海市で暮らし始める夫婦も多い。

西海市では慣れない土地で子育てを始めるパパママたちをサポート。

子どもを通した新しい出会いが親同士の絆を深めます

子育ての同じ悩みを
言い合えるのが嬉しい

西海市を代表する企業「大島造船所」がある大島町には、造船業に従事する若い社員とその家族が多く、子育て中のお母さんたちがたくさんいます。なかには結婚を機に西海市で新生活を始める夫婦も多くいます。

西海市では、子育て家族を応援する制度や交流事業を通して、子育てしやすい街づくりを進めています。お母さんたちが出産後も安心して働けるように、市内には市立・私立の保育園が19カ所、学童期の子どもたちが放課後の時間帯を過ごす学童クラブが13カ所と利用者のニーズに応えています。

また、0～5歳までの未就園児の両親が通える子育て支援事業も市内各地の幼稚園や保育園、支援センターで行っています。支援センターを利用するお母さんたちからは「同じ子育て中のママばかりで話しやすい」「先生もいるので相談しやすい」「悩みを聞いてもらって子育てを楽しめるようになった」など、お母さんたちから高い評価をいただいています。

さらに西海市では経済面の支援策として、2人目以降の幼稚園・保育園料を全額市が負担しています（西海市子育てあんしん応援事業）。

ほかにもさまざまな世代や環境に合わせた子育て支援を行っています。妊娠期から始まり、出産期、乳幼児期、学童期、高校・大学期の奨学金制度、ひとり親家庭支援など、西海市での子育てを全世代的に渡ってサポートしています。

地域のつながりも深く、地域住民たちの



子育てママたちの支援プログラム
「ノーバディーズパーフェクト」
《西海市こども課の取り組み》



保育所・保育園
《市内全19カ所》
※待機児童ゼロ



ママたちの子育てをサポートするプログラム。
「完ぺきな親はいない」をテーマに西海市での子育てをサポートしています



学童クラブ
《市内全13カ所》



「知っ得！」

「子育て」

Q&A

Q 2人目以降の
子育てサポートは？

A 西海市に住民登録されている方で、幼稚園または保育所に同時に2人以上の幼児を就園させている場合、2人目以降の幼児に関する保護者の皆様の経済的負担を軽減する制度があります。実質2人以降は無料になります。また、中学校就学前までの子どもの医療費にも支援制度があります。一番経済的な負担が大きい時期に、西海市民あげて、未来を背負う子どもたちをサポートしています。

Q

子育てママをサポートする
取り組みとは？

A

西海市で暮らす子育てママたちへの支援活動「ノーバディーズパーフェクト(PT)」を行っています。月に2~3回(全10回のプログラム)、ママたち集まってもらい、専門家を交えて子育てにまつわるさまざまな研修や話し合いを行います。専門家が「教える」というのではなく、参加者が楽しく、安心して育児について学べる場です。「初めから完ぺきな親はいない、みんな、周りの方の助けを得ながら親になっていく」というテーマをもとに0歳~5歳までの子どもを持つ親のためのサポートプログラムです。開催日には、無料で託児も行っています。PTを受けたママたちからは「初めての育児、初めての土地で不安も多かったけど、同じママたちとの会話を通して、自分に自信ができました」「ママ友が増えて、情報交換ができるようになった」など、参加して良かったという声をたくさんいただいています。

温かい見守りの環境も、子育て家庭の安心にもつながっています。子育て支援策では行政が中心となり、地域では住民たち自ら子どもたちを見守る環境をつくっている、それが西海市です。

まだまだある「西海市」の子育てサポート

- 離島地域安心出産事業
 - ショートステイ事業
 - トワイライトステイ事業
 - ひとり親家庭等日常生活支援事業
 - ひとり親家庭生活支援事業
 - 子育て支援の情報
 - 一時預かり事業
 - 休日保育
- ※ 西海市保健福祉部 こども課 子育て支援班 電話0959-37-0029

パールテクノ西海

工業団地を整備、分譲し企業誘致を進めている。
西海市を縦断する国道206号線から約5分という好アクセス。



「人と自然が元気な力強い産業と交流のまち、活躍のまちさいかい」を目指す西海市では市民協働のまちづくりに取り組んでいます。

なかでも力強い産業を目指した企業誘致やオランダ村利活用事業に積極的に取り組んでいます。2010年11月に企業立地協定を結び、11年10月から出荷を始めた「ミズズライフ西海工場」は長野県から誘致したブナシメジ工場です。現在は販売ルートを西日本全域に拡大し、最先端の生産技術を用いた効率の良い稼働で市場からの評価も高く西海市の逸品となりました。

また、西海市南東の風早地区には豊かな自然環境の工業団地「パールテクノ西海」



利活用事業ポートホールン

一部を一般公開し、カキ祭りなどの会場として利用されています。
再生を求める声は市内外から多く寄せられています。



企業誘致

自然豊かで災害が少ない西海市は
永続的な企業運営に適したところ
工業団地「パールテクノ西海」ではインフラも整備が完了し、
長崎県や西海市の優遇処置は企業のスタートを後押しします。

働く人たちの暮らしを全面サポート
災害が少なくインフラ整備も続々！

Attraction of enterprises

The City fully supports the lives of workers.
Very few natural disasters occur in Saikai,
and many new social infrastructure construction
projects are currently underway.

Since Saikai City is blessed with abundant nature and very few natural disasters occur in this region, it is a suitable location for a permanent place of business. The construction of social infrastructure for an industrial estate "Pearl-techno Saikai" is now complete. Start-up companies can receive preferential treatment from both Nagasaki Prefecture and Saikai City.